

第36回 Jネット勉強会報告 -文部科学省「防災科学技術研究所見学-

藤沢 勝一郎 (千葉県在住)



平成29年4月23日(日)、科学技術週間行事として行われたつくば市にある国立研究所等の一般公開日に合わせました。

Jネットからの参加者は5名、研究所が広すぎてとにかく歩き疲れました。当日は晴れ・無風状態の見学日和で、子供を連れた家族見学者も大勢いました。

地震：我が国の地震観測地点は全国に7,000～8,000ヶ所ありますが、この内の2,000ヶ所はこの研究所が観測しています。

「地震ザブトン」は、観測された実際の地震波

や長周期地震動の想定地震波を再現して、見学者が揺れと同期した室内被害映像を見ながら地震動を体験できるものです。体験できる地震動には、平成16年の新潟県中越地震や新宿高層ビル30階での想定東海地震もありますが、装置設置場所の都合から、揺れは前後左右のみで、上下はできません。それでも体験希望者が多すぎて10:20時点まで申し込み打ち切り。体験した方々は、一様に満足しているようでしたが、我々が防災研に到着した10:45では、体験申し込みはできませんでした。

実際の地震実験施設では、建物に見立てて積み上げたスチロール製のブロックに、周期の異なる揺れを加えて、建物の高さがどんな影響を受けるのか実験し、解説していました。

大型降雨実験：実測された台風時の豪雨(153mm/hr)をはるかに超えるゲリラ豪雨(実測50mm/10分=300mm/hr)を体験してきました。

一般公開日の実験は、多くの方々にゲリラ豪雨がどれほどのものかを体験してもらうための特別な機会なのです。

実験は施設の約1/6弱を使ってのゲリラ降雨の中を、長靴を履き、傘をさして僅か30mほどのぬかるみを歩くのですが、風の影響を受けず、小さな雨粒にしていてくれたものの、前方がやや霞み、傘が雨でズシリ重くなり、着ていたジャンパーやズボンもすっかり湿っぽくなりましたが、ビショビショにまではなりませんでした。

実際の豪雨時、ましてゲリラ豪雨時には、風などの影響も受けるので、傘は役に立たず前も見えにくくなつて交通事故、砂崩れ・洪水などの恐れもでて危険そのものと実感できました。

